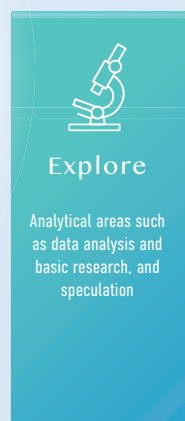


MRI 研究と臨床の最新動向：境界を超えて

企画協力：尾藤良孝 北海道大学大学院医学研究院放射線科学分野
画像診断学教室特任講師

MRIは1970年代の黎明期から今日に至るまで、研究開発のたゆまぬ歩みにより臨床での適応が拡大してきました。そして、学際的な研究によって異分野の新たな技術が臨床で応用されています。本特集では、「MRI研究の最新動向」「臨床MRIの最新動向」「異分野とのクロストーク」に分けて、MRIの今を取り上げます。併せて、日本磁気共鳴医学会大会大会長の抱負やISMRMのトピックス、メーカーの最新技術も掲載します。



MRI 研究と臨床の最新動向：境界を超えて

特集

Step up MRI 2025

I 総論

MRI 研究と臨床の最新動向：境界を超えて

尾藤 良孝 北海道大学大学院医学研究院放射線科学分野画像診断学教室

MRI 研究と臨床の最新動向：境界を超えて

MRIの研究は楽しい、面白い、「I love MRI」〔第43回日本磁気共鳴医学会大会（2015年）の大会テーマ〕！今回の特集の企画協力を通じて、改めてMRIの魅力を感じた次第である。

MRIのどこが魅力的なのか？理由はいいろいろあるが、その一つに、そこかしこにフロンティアのある混沌とした世界が作られ続けていることがある。今までノイズだと思っていたものが計測・解

析技術の進歩によって情報に変わったり、今まで異なる領域だと思っていたものが融合して新しい領域ができたり、研究の深さの方向にも幅の方向にも境界を超えていく動きを、さまざまな場面で感じることができる。さらに、MRIの進展に伴い、今までMRIの外とされていた異分野との連携が重要になっている。そのような状況の下、2025年第53回日本磁気共鳴医学会大会の大会テーマは、「異分野とのクロストーク」と設定された。異分野との議論の下、一見ノイズに思われる混線・混信から、新たな発想と融合領域を生む機会を創出するものと

期待される。

MRIでなぜ境界を超える動きが活発なのか？理由の一つに、磁気共鳴医学の複雑さによって、多様な研究者が集まっていることがある。日本磁気共鳴医学会もInternational Society for Magnetic Resonance in Medicine (ISMRM)も、医師と基礎研究者、診療放射線技師といった多様な専門性を持つ方々から成っている。また、本特集も、医師と基礎研究者が交互に企画協力する仕組みを取っている。このような環境の中、専門性を持ちながら領域や分野の境界を超えていくことが必要と